

2023年12月5日（火）

「阿波踊り」と「津田の盆踊り」

四国大学短期大学部音楽科 川内由子



津田の盆踊り

- 徳島市津田地区の人たちが海で遭難した人を供養するため、お盆に行ってきた踊り
- 「お父（おとう）もんてこーい」「〇〇さん、もんてこーい」と繰り返される涙声にひかれて浜辺に還る新仏をまち、しめやかに踊る

「津田の盆踊り」の音楽

- **唄**（囃子詞も含む）と鳴り物（三味線、笛、鉦、四つ竹、小鼓、大太鼓、締太鼓）で構成されている
- 「**津田の盆踊り唄**」（**津田よしこの**）
現在も**50首あまり**の唄が受け継がれている
⇒ **2022年9月録音（四国大学芸術館スタジオ）**

津田の盆踊り唄

来るか戻るかと 浜へ出てみれば 浜は松風音ばかり

踊れ踊れよ 三十まで踊れ 三十過ぎたら子が躍る

ホーラ エライヤツチャエライヤツチャ
ヨイヨイ ヨイヨイ



オーイオーいと 日高の川で 渡し呼ぶのが清姫か

ホーラ エライヤツチャエライヤツチャ
ヨイヨイ ヨイヨイ

池俣菓子屋じゃ 日の出は餅屋じゃ 浦島そば屋じゃ
一丁目の端まで 行かんか来い来い

ヤットサー ヤットサー

ホーラ エライヤツチャエライヤツチャ
ヨイヨイ ヨイヨイ

下へ下へと 枯れ木を流す 流す枯れ木に花が咲く

ホーラ エライヤツチャエライヤツチャ
ヨイヨイ ヨイヨイ

下女のお初で 家なけれども 烏鳴くのが気にかかる

ホーラ エライヤツチャエライヤツチャ
ヨイヨイ ヨイヨイ

ヨイシヨ

ヨイシヨ

今夜の踊りに来んもんは 氷枕に水布団 お医者迎えて
ええじゃないか ええじゃないか

噺子詞



★「津田の盆踊り」

「段々畑の莢豆（さやまめ）は 一つ走れば
皆走る 私じゃ貴方について走る」

★「牛深ハイヤ」

「段々畑の莢豆（さやまめ）は ひとさや走れば
皆走る 私じゃあなたについて走る」

阿波踊りの起源

- 築城起源説

1587（天正15）年 蜂須賀家政が徳島城を落成したときに祝賀行事として城下の人々が踊り、それが阿波踊りへと発展した

- 風流おどり起源説

1578（天正6）年 十河存保が勝瑞城で風流おどりを開催したという記録に基づく
(福長玄清 1663『三好記』)

- **盆踊り起源説**

お盆に祖先の霊を供養する（祖先を迎える）ために踊られた

風流踊り（ふりゅうおどり）

- 中世芸能のひとつ。鉦・太鼓・笛など囃しものの器楽演奏や小歌に合わせて様々な衣装を着た人びとが群舞する踊りである
室町時代に流行した
- 華やかな衣装で着飾り、または仮装を身につけて、鉦や太鼓、笛などで囃し、歌い、おもに集団で踊る踊りである
- 1477（文明9）年まで続いた応仁・文明の乱以降、とくにさかんになり、踊りを中心に広まった
- 念仏踊や盆踊り、雨乞踊、虫送り、太鼓踊など、多くの民俗芸能、民俗行事の源流となった

阿波踊りの特徴

行進していく踊り

(行列を組んで踊る)



- 島に分かれた地形
- 江戸時代の城下町の町人の居住区が狭かった

手をあげて足を運べば 阿波踊り

- 2拍子のリズム、軽快なテンポ
- ナンバ
同一方向に手と足が出る
左手と左足、右手と右足

阿波踊りの音楽

- **主な鳴り物**

三味線（三下がり）、笛、
鉦、大太鼓、締太鼓

- **打楽器のみの鳴り物**

- **《よしこの》**

情緒たっぷりに歌われるもの
都節音階を主体としている

- **「囃子詞」**

調子をとるために差し入れる言葉

- **《ぞめき囃子》**

三味線を中心とした心が浮き立っ
てくるようなリズム

- **《吉野川》**

1973年に寺内タケシがギターで演奏した曲の旋律を「殿様連」の斎藤氏が笛で演奏し《吉野川》と名付けた

鳴り物の変遷

阿波踊りは定まった芸態ではない⇒新しいものを取り入れる工夫

- 『阿波盆踊図屏風』には、現在ほとんど使われることのない
チャルメラ、胡弓、拍子木などが鳴り物として描かれている
- 大正時代には、バイオリンやマンドリン、クラリネット、
ハーモニカ、木魚など、外で演奏できるものなら何でも鳴り物と
して取り入れられていた

⇒時代と共に鳴り物に移り変わってきている

補助楽器（鳴り物）の変遷

[illegible]

《よしこの》

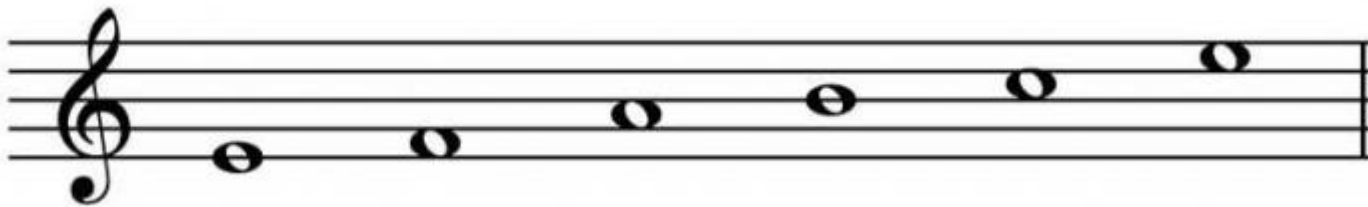
七七七五の詩型
(七七七五調)

《よしこの》は全国で歌われていた。阿波踊りの歌として定着したのは明治時代から大正時代。阿波の風物や固有名詞が織り込まれた。

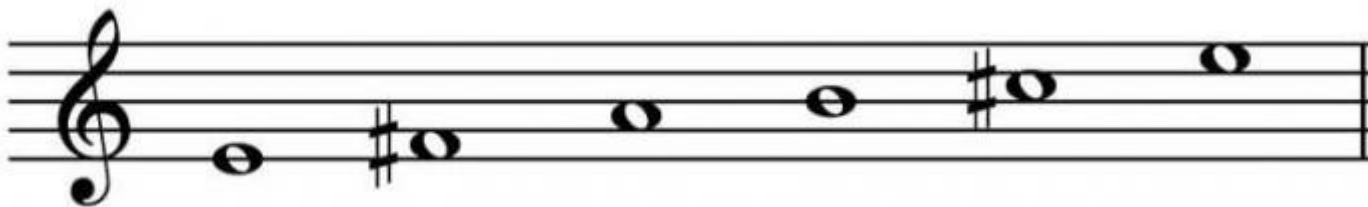
- ・ 阿波の殿様 蜂須賀様が 今に残せし 阿波踊り
- ・ 顔は見えねど 編み笠越しに めしを見染めた 盆踊り
- ・ さあさどなたも お歌いなされ 歌でご器量は 下がりやせぬ
- ・ ほれたほれぬは 目もとでわかる ほれた目もとは 糸柳
- ・ 阿波の踊り子 よしこのばやし 盆の三日を 町々へ
- ・ 阿波の徳島 十郎兵衛娘 お鶴いとしや 巡礼歌
- ・ 君は今ごろ 鼓のしらべ しめつゆるめつ だまされる
- ・ 狭い広いと わしが寝た部屋を 今はよそ目で 見て通る
- ・ 盆の踊りと 眉山の桜 聞かせやりたい 阿波便り
- ・ 阿波の城山 むかしも今も ぞめき踊りの 声がする

日本の音階

みやこぶし
都節音階
《よしこの》



りつ
律音階



みんよう
民謡音階



りゅうきゅう
沖縄(琉球)音階



三味線の調弦

一の糸

二の糸

三の糸

本調子



二上り



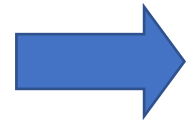
笛が6本調子
赤の音で調弦

三下り

阿波踊り



民俗芸能の課題



民俗芸能の伝承

- 後継者不足
- 地域に子どもがいない
- 指導者の高齢化
- 用具の老朽化
- 資金不足

- 保存継承団体のNPO法人化
- 帰郷者・近隣転出者の参加
- サポーター参加
- 企業や団体による支援
- 新たな後継者の育成

伝統を受け継ぎ、未来に繋ぐ

津田の盆踊り

阿波踊り

